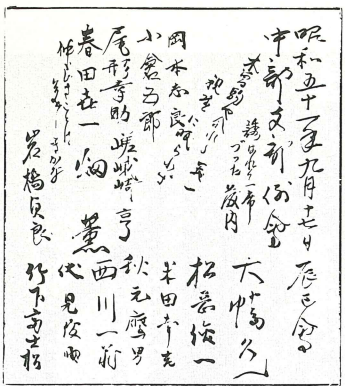


胸一ぱいに吸う。異口同音に空気がうまいという。そして素晴らしいうち、穂高の連峰に一行は盛んにシャッターをきる。御嶽の七合目田ノ原に到着。

目前に相対する御嶽山は独りそびえる大きなお山。美しく個性豊かなお山、峠の王国に君臨するお山。流石に巷間信仰篤いお山と感嘆これ久しお山のふところを暫し散策、時の過ぎるのを忘れた。約一時間後お山に別れて下山、谷底の町木曾福島に引返す。旧幕時代日本三大関所の一つ福島宿、関所跡にある車屋に入る。有名なソバに腹を満たせ暫時休息、留守宅への土産ソバ饅頭等求め、午後二時四十二分特急しの号に乗車帰路につく。

参加者平均年齢七四才強とは思えぬ元気で疲れもみせず、きてよかったです、登ってよかったと満足感にひたり、二日に亘る予定の行楽



を終え名古屋駅で又の機会を約して散会した。終りにこの企画や実施にあたり伏見幹事の並々ならぬ尽力に敬意を表してペンをおく。(竹下記)

### ★参加者氏名

大幡久一 柳田義一 米田幸吉  
松岡俊一 小倉五郎 嵯峨崎亨  
畑 薫 藤内金次 岩橋貞良  
春田喜一 岡本志良 尾形幸助  
秋元鷹男 西川一蔵 伏見俊助  
竹下富士松(以上十六名)

### まさに幸福な生涯

帝人株式会社社長

### 大屋晋三

藤原長司君は少年のころ、今を去る六十年前、鈴木商店にいわゆるボンさんとして、私より三年ほど早く入社し、主として繊維の販売を担当していた。

その一方で私は、やがて帝人に移って、岩国に近代的な大工場を建設したのであるが、それが昭和二年四月あたかもフル生産を開始した時に、親会社の鈴木商店が破綻したのであった。そこで岩国工場を中心として生産された帝人の糸を売りさばくため、帝人が直接に販売機関を持つ必要が痛感された。当時、鈴木商店の青年社員と

して、人絹販売を担当していた下関支店京都駐在の千葉順一、東京支店の小橋一水、名古屋支店の藤原長司の三君をして、これに当たさせたのであった。

これは急を要するので、新しく会社を設立する余裕がなかった。たまたま帝人の広島工場に、鈴木商店下関支店の翼下につらなる広島燃糸工場があり、この工場なら今後債権の対象にはなるまいからと、商店の名称にこれを使用することとなったのである。そして工場では商売には不向きだからと、「広島燃糸商会」と名づけたのである。

なおこの広島燃糸工場は大正十三年、千葉順一が中心となって、人絹燃糸界の大先覚者石田宇之助の技術と機械設備を用いて設立したもので、帝人広島工場の等外品の糸を燃糸加工して売りさばいていた。しかしまもなく機械設備を大津に移して、当時は建物を残すのみであった。

広島燃糸商会は、本店を京都に置き、千葉順一がこれを主宰して、同時に京阪神地区の販売を担当し、藤原長司は名古屋に駐在して岐阜一宮・浜松地帯を、小橋一水は東京に駐在して両毛・米沢地帯を担当した。その集金が三万五万に

なると、これを古新聞に包んで神戸の本社へ直接持参し、わが社の急場をしのぐのに大きな貢献をしたのであった。

こうして私は藤原君を、他の二君とともにその青年時代から五十年にわたって、知悉しているのである。当時私は、この三君を観察して、千葉君は豪放磊落、いかに男らしい人物ではあるが、緻密さに欠けるので、大成はむずかしいと見たのであった。はたして彼は、一時は巨富をなし、花柳界等では男の中の男と謳われたものであったが、あまり度を過ぎて、ついに終りをよくしなかった。

これに反して小橋君は、地道な人ではあったが大した特徴はなく、私は初めから期待しなかったし、またこれといった仕事もしてはいない。

ところで藤原君は、人間として底力があり、商機を見るに冷静かつ読みが深く、しかもものを締めくくることを知っていた。そこで私はその当時から、結局は藤原君が一番大成すると予測していたのであったが、その見るところに誤りはなかった。

さてこの広島燃糸商会は、正式には会社ではなく、匿名組合のような形で経営していたが、その後

この三君はそれぞれに分離して独立した。そして藤原君はやがて北陸機業地が人絹織物の中心地であることに着目して、昭和五年四月、本拠をここに移して「福井広燃商会」を創業したのであった。

これが現在の「広燃株式会社」の発端であるが、開店当時の陣容は社長の藤原君を含めて五名、電話一本、三輪自転車一台、自転車二台のまことに微々たるものだったそうである。それが藤原君の着実な性格を反映して堅実な経営をつづけ、逐次その地歩を拡大して、ついに現在のように北陸の商社間で、最高の資産内容を誇るまでに発展したのであった。

ところで化繊、なかでも化繊は、その相場の変動が非常に激しいので、これに従事する人の興亡には、実に甚だしいものがある。

そのために業界では「錦を着たりボロ着たり」と、よくいわれているのである。それを藤原君は、この変動の激しい事業に従事しながら、いかなる不況期に際しても、かつて業績を動揺させたことがなく、また偉なりといわなければならない。

さらに藤原君の人柄は、実に情愛が深く、人の面倒をよくみためのである。いまを時めく自治大臣

の福田一君にしても、その今日を築くについては、藤原君の親身な陰の力が大きくものをいっているのである。これはかつて藤原君が、私の参議院議員選挙について、献身的に尽くしてくれたことから、よく察知できるところである。

またかつての同僚が失意に沈んでいる場合、取引先が困っている場合などには、常に暖かい救援の手をさしのべていたのである。しかもその手は、ただに当人だけに限らず、その子弟や遺族にまで及んでいた。

君は徒手空拳にして立ち、一布衣から商人として大成した立志伝中の人物である。しかも常に人から慕われ、かつて人から指弾されたことがない。また家庭的にも恵まれ、温良貞淑な夫人にかしづかれ、さらに子息は優秀であって、よく君の事業を継ぎ、そこには後顧の憂いは少しもないのである。まことに君の生涯こそは、幸福なものであつたといわなければならない。

昨年四月二十四日逝去された藤原長司さんの「藤原長司を偲ぶ 広燃四十五年史」が、この程御息 広燃社長藤原 隆さんから贈って来られた。地味な優れた装幀



の刊行を掌にしている今更ながら故人の人間味豊かなようすが、追憶しても忍び切れないものを悟らされた。そこでこの中から帝人社長大屋晋三さんの稿をそのままの号に頂戴することにした。(編)

### あ、黄旗くん!!

### 西川政一

あの深刺たる君が

辰巳会の幹事に昨今顔を見ることが少ないというので、大阪の諸君が非常に物足りなく感じていたが、私も同君が病臥だと聞いて、一日も早く元の元気を顔を見せてくれる様にと祈っていた処、思いもかけぬ訃報に接して愕然とした。先に嶋内君が突然に顔を見せられなくなった直後だけにその驚きは一層であった。嶋内君の死を悼んで、木畑君が「たつみ」紙上で色々と思ひ出と追憶の記を書き、又その人一倍の辰巳会に対する努力と熱意のほどを書いて冥

使っていた。ことほど左様に彼は辰巳会を愛し、又慎重であった。

福を祈ること切なるものがあつたのに、今やその地位を変えたことは私共二倍三倍の悲しみを味わうものである。嶋内君の場合、私は丁度国際会議のためローマへ行っていたので失礼していたが、のち、仏前に参じた時、奥様はじめ御家族の御愁傷の様、又同君が平素どんなにか辰巳会のことを考え、又その努力を払ってしてくれたかなどお聞きするに及んで、私自身も一入憂愁の気分に関されたのであった。

今回の場合、私は内地にこそ居たが、すぐには間に合わず漸く数日後西下の機を得て高槻のお宅におまいりした。今なお香煙たちこめ、同君の元氣そうなお姿も写真の上ながらいきいきと語りかける様であった。御遺族の御一人が「西川さんがおまいり下さったよ」と生ける人にも言う如く……。

並いるみんなはただ無言のまま暗涙にむせんだ。

ほんとうに木畑君は辰巳会のために真剣であった。そして辰巳会をこよなく愛してくれた。同君御所有の貨ビルも当然木畑ビルと云うところを「たつみビル」と称し、同君の配慮から異と云う字を使っていた。ことほど左様に彼は辰巳会を愛し、又慎重であった。

又彼が「たつみ」の編集を重視して柳田義一君を援助していたことは、毎号の「たつみ」の目録を一読しただけでも判る。「たつみ」のためにどんな苦労も厭わないという気概強く、今回君を失つて関係者一同がどれ位落胆していることであろうか。特に私としては、岳父の頌徳碑建立に際し、何人も出来ない様な力を注いでくれて、見事に由緒深い六甲の丘に完成したことは、常に我々の感激の泉である。

鈴木商店時代、彼が横山保険部長の下で、江本君と共に奮闘していた姿が想像されて、今あの世でお二人と語り合われている姿を思ひ浮べ、はるかに深く深く冥福を祈るものである。

(追記) 御長男は今、教鞭を執っておられると云う。私も鈴木にはいる前、「代用教員試験」を受けて見事失敗したことがあるが、もともと教育に対する興味は非常に深いので、いろいろこの問題について仏前でお話をした。希くは令息の大成を祈るや切なるものがある。木畑君!! どうか御息を守り給え!!

### 木畑龍治郎君への弔辞

本年二月風邪がこじられられ高槻

市医大病院に御入院、極力御加養に努められたにもかかわらず病勢衰えることを知らず遂に厚き御家族の御介抱をも裏切り空しくも去る十一月七日午前八時二十六分眠るが如く大往生を遂げられました。行年七十二才。次いで翌八日午後二時より自宅に於いて厳粛なる告別式が行われました。会葬二百名以上を数えたことも御生前、各方面に尽くされた御仁徳の然らしむるところ、一同暗涙に咽んだことでした。

当日柳田幹事本会を代表して謹んで弔辞を霊前に捧呈申し上げました。

### 弔詞

### 木畑龍治郎君

人の世の定めとは申しながらこのあいだまであんなにまで元気であつた君が病魔の冒すところ鬼籍に入られたとは云え、この哀しみは最も堪えがたく何時の日かこの胸の痛みが医やすことが出来るでしょう。嗚呼……

君とは鈴木商店に御入社以来共に会計部に机を並べて若き日を愉しみ、柳田済美寮から早朝競って再度登山に健脚を誇ったことでした。のちに保険部に転ぜられ、横山正躬氏のもとに多大の信頼を集

会員の移動

氏名	生年月日	〒 自宅住所	勤務先	鈴木時代の職歴
田坂鉄平		279-15今治市桜井団地1-4-6		
高橋宇三郎		183 東京都府中市浅間町4-21-41		
岩崎松喜		565 豊中市新千里北町2-40 C64-103 TEL 06-831-7546		
藤沢アイ	(准会員) 藤沢次郎夫人	158 東京都世田ヶ谷区東玉川2-25-12		

哀悼録

氏名	物故年月日	享年	夫人又は嗣子	〒 自宅住所
二階堂行徳	51. 9. 7		鈴子	145 東京都大田区田園調布3-15-9
渡利宣一	6. 17		友子	564 吹田市垂水町1-13-2
村上宗一	9. 9			655 神戸市垂水区西舞子8-5-14
佐分利勇	9. 13			780 高知市上町1-8-12
伊藤秀一	9. 8			376 桐生市仲町2-7-24
鈴木重章	9. 18			658 神戸市東灘区岡本6-5
宮尾亮三	10. 25			167 東京都杉並区桃井2-22-9
山本実	11. 4		重之	153 東京都目黒区五本木1-28-11
木畑龍治郎	11. 7		紳一	569 高槻市日吉台五番町12-12

己歳の歴史

明治2己巳	薩長土肥四藩籍奉還 日独通商好修条約調印 新聞紙刊行の許可 東京横浜電信線成る	昭和16辛巳	大日本青少年団設立 日ソ中立条約調印 関東軍特別大演習発動 在米日本資産凍結さる 日本軍南仏印進駐 仏印共同防衛議定書調印 翼賛議員連盟創立
14辛巳	国会開設の勅諭下る 自由党開詰成総理板垣退助 日本鉄道会社設立 警視庁設置	28癸巳	秩父宮逝去 吉田首相バカヤロー暴言 東北三陸地方に大地震、大津波 死者1,500名余 皇太子外遊 ローゼンパーク夫妻処刑さる 朝鮮休戦調定板門店で調印 日本放送本放送 「雨月物語」ベニス映画祭最優秀受賞 奄美群島日本復帰 シネマスコープ初上映
26癸巳	鉄道東北線開通 ケーブル東大に哲学を講ず		
38乙巳	日露戦争旅順陥落、奉天占領 日本海海戦、米大統領日露講和調定を試みる、ポーツマス条約に依り和す。 日本遼東の権益を占め、ロシアより東清鉄道の譲り渡し、樺太南部の割譲。 日英同盟拡張。日韓協約締結、伊藤博文韓国統監に任ず。		
大正6丁巳	ロシア新政府を承認		
昭和4己巳	濟南事変協定正式調印 共産党検挙(4.16事件) 浜口内閣設立 清水トンネル開通		

謝辞

木幡紳一

亡父龍治郎儀生前中は皆様より何かと御厚情にあづかり御礼の申しようもありません。又告別式に際しては貴会よりは御鄭重なる供花並に御弔賜り且つ遠路の処多数の御会葬下され泉下の父もさぞかし感銘に咽んでいることと信じます。尚今後共亡父に寄せられた御支援を何卒ぞ私達遺族の上にも御寄せ下さるよう伏して御願ひ申し上げます。先ずはことば足らず乍ら御挨拶と致します。

昭和五十一年十一月九日

別の御挨拶と致します。では木畑龍治郎君サヨナラ。

一山の雉子鳴き狂うなり涅槃像大輪の菊白し天蓋の扉文殊が押しす

昭和五十一年十一月八日  
辰巳会代表 柳田義一

◇お礼の言葉 東條喜美

早々御見舞を有りがとう存じました。テレビ等にて御承知のように、台風十七号のむごい爪跡は高知のみならず、日本に大変な被害となりました。高知の半分の家は水びたしとなりましたが、御蔭様にて私方は格別の事態になりませぬ、鏡川の水は所により岸を越しだした時点で、台風はこれからという一人の夜の不安をしみじみ味わいました。四日過ぎました今日も、昼間は水道は一滴も出ないという有様ですが、直接災害にあわれたお人を思いますれば、不自由の内でもございませぬ、平生の生活にもどりましたから何卒御放念下さいませ。神戸の方も大分の雨だったようですが御被害はございませぬか。

三十五日忌には悪天候の中を皆様で御焼香下され、御丁寧に色々

と御厚情を有りがとう存じました。先日は又御誌たつみを御恵与いただきまして一度お礼も申し上げねばと思ひますばかり失礼いたして居りました。亡き主人には身にあまる御言葉の御記事をいただき、天上にて感激している事と存じます。かわりまして厚くお礼申し上げます。

皆様のそれぞれに意義あるお話を拝見させていただきました。東條喜三郎氏より電話のみぎり柳田様とはお親しくお交り願つて居る由うかがいました。主人存命中はもとより、亡き後も何かとお気をつかわれましてご厄介になつておりますが、ほんといつとでも頭の下る思いのお人柄で居られます。主人の姿は消えましたが……

柳田様、東京の家永様、県下では知事の奥様、前知事の奥様等と沢山のお人から事ある毎におはげましやらお見舞のお言葉をいただきまして心から感謝の外はございませぬ。これも一重に生存中亡き人の徳のあらわれと感謝の気持ちには元気に供養專一に過して行きたいと思つて居ります。言葉も足りない思いで御座いますが、お礼を申し上げます。

何卒御機嫌よろしくお暮し程析り上げます。

◆北海道支部 だより

永らく北海道支部で御活躍を願いました横田周作氏は、日輪ゴム株式会社社長御就任の為に帰神されましたので、今回新しく小川謙二郎氏を迎え、何かとお世話になることと致しました。

◆原稿募集

内容 随想 短歌 詩 俳句 絵画  
写真 鈴木往時の思出等  
原稿用紙で 四〇〇字詰 五枚程度  
締切り(縦書) 昭和五十二年五月末日  
送り先 神戸市生田区京町七二  
太陽鉱工(株)内  
「たつみ」編集部宛

謹賀新年 昭和52年元旦

株式会社 中華料理 日本料理 陶陶亭

代表 加地彦太郎

〒〇四〇  
函館市若松町一八番二〇号  
電話(〇三三)代表二二八-五一一三

柏原留路

〒六五七  
神戸市灘区上野通六丁目一〇二二  
電話(〇七八)八六一-〇四三三

木村七郎

〒五七三  
枚方市東香里二一六一六  
電話(〇七二〇)五四一四〇三三

毎朝体操五十余年、元気で迎年八五才、本年もよろしく御交誼の程を。